

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

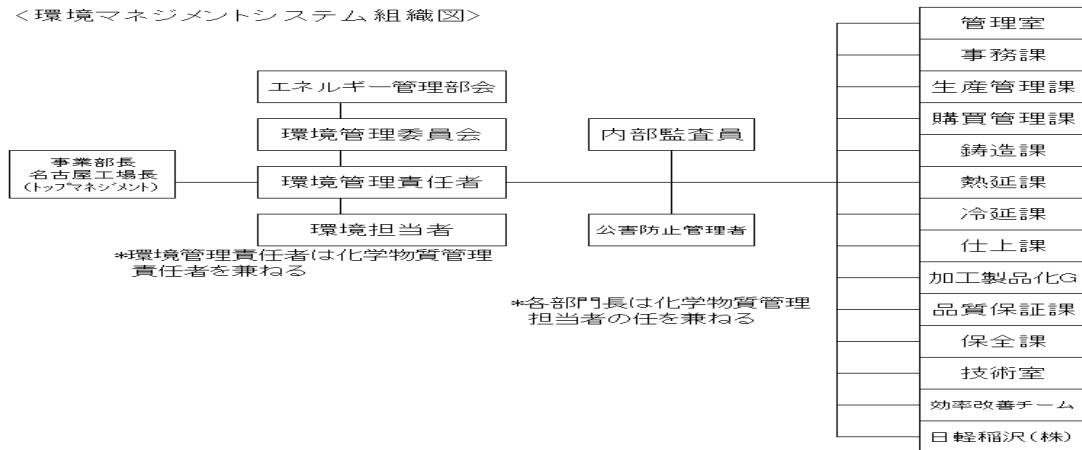
（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
令和 3 年 6 月 16 日	
(2021 年)	
愛 知 県 知 事 殿	
事業者 東京都港区新橋一丁目1番13号 日本軽金属株式会社 代表取締役社長 岡本 一郎	
提出者 事業所 日本軽金属株式会社名古屋工場	
住 所 愛知県稲沢市小池 1 丁目 11-1	
氏 名 工場長 寺本 秀樹	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 0587 - 21 - 1111	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名 称	日本軽金属株式会社 名古屋工場
事業場の所在 地	愛知県稲沢市小池 1 丁目 11-1
計画期 間	2021(令和 3) 年 4 月 1 日 ～ 2022(令和 4) 年 3 月 31 日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種 類	2 3 (非鉄金属製造業)
②事業の規 模	事業所の製造品出荷額【前年度】 3 , 2 4 3 , 2 0 0 万円
③従業員 数	5 9 1 人
④産業廃棄物の一連 の処理の工程	別紙 1

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図) IS014001 環境マネジメントシステム組織の中で管理している。

<環境マネジメントシステム組織図>



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

【前年度実績】

産業廃棄物の種類

別紙2-表1

排出量

(これまでに実施した取組)

- * 状況) 生産量減の影響により、廃棄物排出量減であった。
- * 設備で発生するクーラントの原単位改善活動継続中であり、廃油発生量は減少傾向にある。

②計画

【目標】

産業廃棄物の種類

別紙2-表2

排出量

(今後実施する予定の取組)

- * 熱間圧延機のクーラント原単位改善活動継続し、廃油発生量抑制する。
- * 木くず排出低減のために、再利用化を促進する。
- * 中長期計画として、蛍光灯・水銀灯などを長寿命 (省エネ) タイプのLED等機器への交換を促進し照明灯の廃棄量削減する。

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状

(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

- * 廃棄の際は、こまめな分解分別廃棄徹底 (金属類は有価物処分)。
- * 廃棄保管場所に、分別注意点など書いた看板取付け注意喚起。

	②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) * 廃棄物の細かな分解、分別徹底継続。 金属混合物は分解抽出し有価物化。紙類は、電子化促進による発生量 を削減し、できるかぎり雑紙廃棄→再溶解処理による再資源化促進。 * 廃棄物の分別廃棄方法について、手順書や現場掲示し社内関係者へ周知ルール化徹底。
--	-----	--

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	115 t	t
	(これまでに実施した取組)		
	* 熱間圧延機で発生した廃クーラントを油水分離処理し、再燃料化利用を行ってきたが、生産状況や設備故障の影響もありうまく実施できなかった。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油	廃酸、廃アルカリ
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	100 t	5 t
	(今後実施する予定の取組)		
	* 熱間圧延機で発生した廃クーラントを油水分離処理し、再燃料化利用促進。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量		t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量		t

		(これまでに実施した取組) 前年度は特になし。		
	②計画	【目標】		
		産業廃棄物の種類	汚泥	
		自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	t
		自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	10 t	t
		(今後実施する予定の取組) 社内で汚泥が発生した場合、社内で中和・脱水により減量したい。 関係者と連携を密にしながら、効率的に処理をすすめていきたい。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項		
①現状	【前年度実績】	
	産業廃棄物の種類	無し
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t
	(これまでに実施した取組) なし	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	無し
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t
	(今後実施する予定の取組) なし	
産業廃棄物の処理の委託に関する事項		
①現状	【前年度実績】	

		産業廃棄物の種類	別紙 2 - 表 3
		全処理委託 量	
		優良認定処理業者への の 処理委託 量	
		再生利用業者への の 処理委託 量	
		認定熱回収業者への の処理委託 量	
		認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託 量	
		(これまでに実施した取組) * 優良認定処理業者への優先的な処理委託実施。 (同時に、一般処理業者への優良認定資格取得の促進) * 新規の優良処理業者の探索。 * 処分先訪問し、再生処理業者の安定処理状況の確認。	

(第 5 面)

	②計画	【目標】	別紙 2 - 表 4
		産業廃棄物の種類	
		全処理委託 量	
		優良認定処理業者への処 理委託 量	
		再生利用業者への 処理委託 量	
		認定熱回収業者への 処理委託 量	
		認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への処 理委託 量	

		(今後実施する予定の取組) ・ 前年度同様の活動を継続する。
※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙1

種類	工場内				委託	
	発生工程	発生物	場内処理		中間処理	最終処分
廃油	熱間圧延	廃圧延油	→ スカム分離	→ スカム	油水分離	燃料
		鑄造燃料	← 真空蒸留	←		
汚泥	洗浄	廃アルカリ	→			
		廃酸	→	中和・脱水	→ 脱水ケーキ	混錬 → セメント原料
	水処理設備	余剰汚泥	→			
	冷間圧延	ろ過助剤	→	→	→	混錬 → セメント原料・路盤材
	工場全般	清掃汚泥類 廃硝石屑	→	→	→	→ → 埋立て
ばいじん	鑄造	ばいじん	→	→	→	混錬 → セメント原料
	鑄造	炉前集塵灰	→	→	→	→ → 埋立て
鉱さい	鑄造	レンガ・耐火物	→	→	→	造粒固化 → 再生土
ガラス・陶磁器屑	工場全般	保温材	→	→	→	→ → 埋立て
		耐火物	→	→	→	→ → 埋立て
混合物	工場全般	蛍光灯・水銀灯 乾電池	→	→	→	→ 破碎 → リサイクル
		廃電化品類	→	→	→	→ 破碎 → リサイクル・埋立
廃プラスチック	梱包	ラミネート・ホリシート類	→	→	→	→ 破碎 → 燃料
		塩ビ類	→	→	→	→ 破碎 → 埋立
廃酸・アルカリ	洗浄	アルカリスラッジ	→	→	→	中和 → セメント原料
木くず	梱包資材	廃パレット	→	→	→	→ 破碎 → 燃料
		ばん木	→	→	→	→ 破碎 → パルプ原料
金属くず	ロール研磨	研削スラッジ	→	→	→	圧縮 → 製鋼原料

別紙2

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

表1

①現状 前年度実績

産業廃棄物の種類	金属くず	鋳さい	廃油	汚泥	廃プラスチック類	木くず	ばいじん	廃酸・ 廃アルカリ	ガラス・ 陶磁器	混合物
排出量	13t	155t	116t	278t	136t	306t	52t	80t	7t	2.0t

計

1145t

表2

②計画 今年度予定

産業廃棄物の種類	金属くず	鋳さい	廃油	汚泥	廃プラスチック類	木くず	ばいじん	廃酸・ 廃アルカリ	ガラス・ 陶磁器	混合物
排出量	13t	142t	100t	285t	128t	301t	50t	78t	7t	3.0t

計

1107t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

表3

①現状 前年度実績

産業廃棄物の種類	金属くず	鋳さい	廃油	汚泥	廃プラスチック類	木くず	ばいじん	廃酸・ 廃アルカリ	ガラス・ 陶磁器	混合物
全処理委託量	13t	155t	1t	278t	136t	306t	52t	80t	7t	2.0t
優良認定処理業者への処理委託量	0t	155t	1t	26t	17t	162t	6t	11t	7t	1.9t
再生利用業者への処理委託量	13t	155t	1t	259t	109t	306t	46t	80t	0t	1.7t
認定熱回収業者への処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0.0t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0.0t

計

1030t

387t

971t

0t

0t

表4

②計画 今年度予定

産業廃棄物の種類	金属くず	鋳さい	廃油	汚泥	廃プラスチック類	木くず	ばいじん	廃酸・ 廃アルカリ	ガラス・ 陶磁器	混合物
全処理委託量	13t	142t	1t	285t	128t	301t	50t	78t	7t	3.0
優良認定処理業者への処理委託量	0t	142t	1t	40t	17t	200t	6t	11t	7t	2.4
再生利用業者への処理委託量	13t	142t	1t	265t	110t	301t	44t	78t	0t	2.1
認定熱回収業者への処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0.0
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0.0

計

1008t

426t

956t

0t

0t